

令和6年度

十勝管内教育研究所連絡協議会総会

【総会】 進行：1～4及び11 事務局（十勝教育研究所柴田主任）

- 1 開会の言葉
- 2 市町村教育研究所所長 自己紹介
- 3 十勝教育研究所所員 自己紹介
- 4 議長選出
- 5 役員選出
- 6 連絡協議会会長挨拶
- 7 報告事項
 - (1) 令和5年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業報告
 - (2) 令和5年度 第78回北海道教育研究所連盟研究発表大会（十勝大会） 兼 第65回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会 兼 令和5年度十勝管内教育研究所所員研修会事業報告
 - (3) 令和5年度 会計決算・監査報告
 - (4) その他
- 8 協議事項
 - (1) 令和6年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業計画（案）について
 - (2) 令和6年度 十勝管内教育研究所所員研修会実施要項（案）について
 - (3) 令和6年度 十勝管内教育研究所連絡協議会予算（案）について
 - (4) その他
- 9 その他
 - (1) 令和7年度以降の所員研修会発表割当について
 - (2) 十勝管内教育研究所連絡協議会役員・所員研修会の開催地（輪番）について
 - (3) その他
- 10 議長退任
- 11 閉会の言葉

【所長研修会】 進行：副会長（横山十勝教育研究所副所長）

- 1 令和6年度市町村教育研究所の事業について（交流・協議）
- 2 その他

日時 令和6年5月30日（木）14時～

場所 十勝教育研修センター

令和6年度 十勝管内教育研究所連絡協議会

◆ 十勝管内教育研究所一覧

市町村名	所長名	所属所	事務局等 (連絡窓口)	連絡先
音更	笠原 聡	緑陽台小	竹本 良平	柳町小
士幌	和嶋 康彦	中士幌小	鳥倉 史也	中士幌小
上士幌	山田 圭介	上士幌小	山田 圭介	上士幌小
鹿追	島田 諭	笹川小	森 好広	笹川小
新得	池田 圭子	屈足南小	山西 一樹	屈足南小
清水	佐藤 貴光	御影小	堀口 初枝	御影中
芽室	椿原 雅章	芽室西中	和田 秀治	芽室西中
中札内	菅原 晴彦	上札内小	政所 敬志	中札内中
更別	長澤 啓二	上更別小	山野 圭	更別小
大樹	大石 浩之	大樹中	菅原 弘貴	大樹小
広尾	緑川 昌浩	豊似小	喜多 徹	広尾小
幕別	浪内 洋一	忠類小	伊藤 健	札内北小
池田	稲葉 珠樹	池田小	田村 浩文	池田小
豊頃	小副川 浩	大津小	中野 真一	豊頃小
浦幌	安齋 亮太	上浦幌中	加藤 伸啓	上浦幌中
本別	舘 英樹	勇足小	舘 英樹	勇足小
足寄	児玉 祥洋	大誉地小	川畑 真輝	大誉地小
陸別	小田 浩平	陸別小	金子 信隆	陸別小
帯広	新井 英樹	市教委	新井 英樹	市教委
十勝	山田 洋	十勝教育研究所	柴田 悠二	十勝教育研究所

◆ 令和6年度 十勝管内教育研究所連絡協議会役員 (案)

役員	氏名	所属	備考
会長	山田 洋	十勝教育研究所	
副会長	新井 英樹	帯広市教育研究所	
	浪内 洋一	幕別町教育研究所	
	横山 一仁	十勝教育研究所	
幹事	小田 浩平	陸別町教育研究所	陸別
	長澤 啓二	更別村教育研究所	更別
	池田 圭子	新得町教育研究所	新得
	安齋 亮太	浦幌町教育研究所	浦幌
	山田 圭介	上士幌町教育研究所	上士幌
会計監査	笠原 聡	音更町教育研究所	
事務局	柴田 悠二	十勝教育研究所	

■ 報告事項

(1) 令和5年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業報告

○ 共同研究 授業実践グループ

Aグループ

役職	氏名	所属研究所	所属学校
推進幹事	引地 智也	本別町総合教育研究所	勇足小学校
推進副幹事	齊藤 織斗	大樹町教育研究所	大樹小学校
授業者	松井 孝之	芽室町教育研究所	芽室小学校
研究員	湯藤 浩二	士幌町教育研究所	士幌小学校
	中川 弥生	上士幌町教育研究所	上士幌小学校
	市原 秀樹	新得町教育研究所	新得小学校
	岩田 浩平	更別村教育研究所	更別小学校
	菅原 千晶	浦幌町教育研究所	浦幌小学校
	小池亜沙紀	浦幌町教育研究所	上浦幌中央小学校
	尾崎 唯	陸別町教育研究所	陸別小学校
	柴田 彩	帯広市教育研究所	稲田小学校

Bグループ

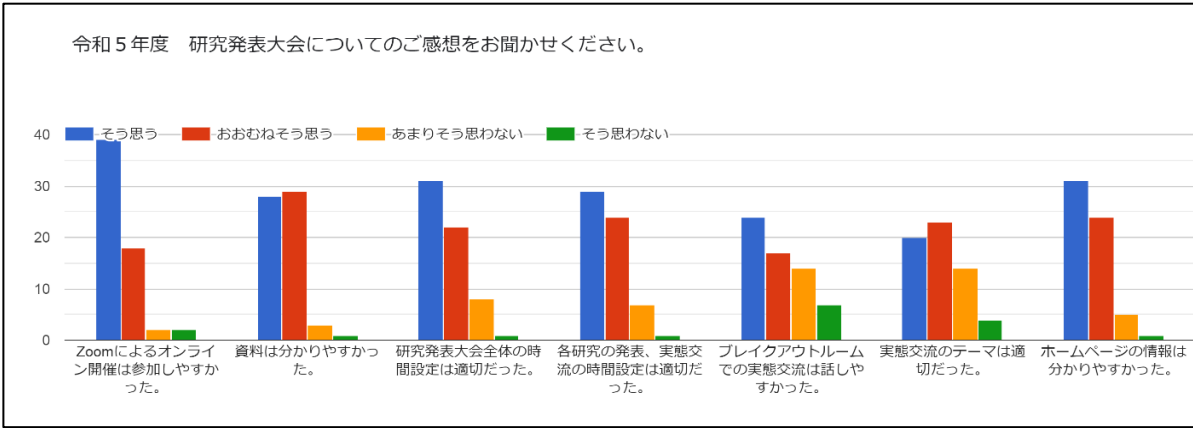
役職	氏名	所属研究所	所属学校
推進幹事	安食 正人	中札内村教育研究所	中札内中学校
推進副幹事	長澤 翔太	幕別町教育研究所	幕別中学校
授業者	土井 誠人	広尾町教育研究所	広尾中学校
研究員	上野 純子	音更町教育研究所	音更中学校
	梅原 翔太	鹿追町立教育研究所	鹿追中学校
	山内 優萌	清水町教育研究所	清水中学校
	遠藤 雄平	池田町教育研究所	池田中学校
	竹中 悠	豊頃町教育研究所	豊頃中学校
	山田 優里	足寄町生涯学習研究所	足寄中学校

○ 業務日誌

6月6日(木)	第1回共同研究員会議	研修センター
6月20日(火)	第2回共同研究員会議(Aグループ幹事・副幹事・授業者)	オンライン
6月29日(木)	第2回共同研究員会議(Bグループ幹事・副幹事・授業者)	オンライン
7月11日(火)	第3回共同研究員会議(Bグループ)	研修センター
7月13日(木)	第3回共同研究員会議(Aグループ)	研修センター
8月22日(火)	第4回共同研究員会議(グループ)	研修センター
9月5日(火)	中学校 授業実践1	土井教諭(広尾中)
	第5回共同研究員会議(Bグループ)	広尾中学校会議室
9月12日(火)	小学校 授業実践1	松井教諭(芽室小)

	第5回共同研究員会議（Aグループ）	芽室小学校パソコン室
9月14日（木）	中学校 授業実践2 第6回共同研究員会議（Bグループ）	土井教諭（広尾中） 広尾中学校会議室
9月21日（木）	小学校 授業実践2 第6回共同研究員会議（Aグループ）	松井教諭（芽室小） 芽室小学校パソコン室
10月5日（木）	第7回共同研究員会議（グループ）	オンライン
1月16日（火）	第8回共同研究員会議（幹事・副幹事・授業者）	オンライン
1月30日（火）	第9回共同研究員会議（幹事・副幹事・授業者）	研修センター
2月8日（木）	十勝教育研究所研究発表大会	オンライン

○ 令和5年度 十勝教育研究所研究発表大会

■ 期 日	令和6年2月8日（木）
■ 実施方法	Zoomによるオンライン開催
■ 会 場	配信側：十勝教育研修センター、受信側：各学校等
■ 参加者	146名
■ 研究発表	<p>発表1 十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究（1/2年次） 「自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究」 ～考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～</p> <p>発表2 十勝教育研究所 協力員研究（2/2年次） 「子どもたちに自他を認め合う心を育む研究」 ～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～</p>
■ 参加者交流	<input type="checkbox"/> 共同研究（小学校第5学年国語科／中学校第1学年外国語科）に関わる実態交流 <input type="checkbox"/> 協力員研究（道徳科／小学校第6学年・中学校第2学年）に関わる実態交流
■ 反省	<p>令和5年度 研究発表大会についてのご感想をお聞かせください。</p>  <p>・ コロナ禍を機に Zoom によるオンライン開催となり、この形が定着してきた。今年度はコロナが5類相当扱いとなったが、Zoom によるオンライン開催を継続した。移動時間がないため、気軽に参加できたり、大会の時間を十分に確保できたりするなどのメリットがあった。研究発表後の交流も、グループ内で互いの実践について話し合い、学びを深めていただくことができた。</p>

- ・ 限られた時間で、理論提案から実態交流までねらいに応じた内容にすることができ、アンケートでもおおむね好評をいただいたことから、参加者にとって有意義な研究発表大会であったと思われる。しかし、実態交流のグループ編成や交流方法については、昨年度に引き続き課題として残った。校種別のグループ分けや討議の柱の事前周知などを検討したい。
- ・ 各市町村教育研究所等の協力により、昨年に引き続き140名以上の参加者があった。今後、研究所員以外の参加者がより増えるような呼び掛けも必要である。

(2) 第78回北海道教育研究所連盟研究発表大会（十勝大会） 兼 第65回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会 兼 令和5年度十勝管内教育研究所所員研修会事業報告

■ 期 日	令和5年8月31日（木）9月1日（金）
■ 主 管	十勝教育研究所
■ 実施方法	参集型とZoomによるハイブリット開催
■ 会 場	十勝教育研修センター、幕別町百年記念ホール
■ 講 演	○ 講師 白水 始（国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官） 廣谷 貴明（国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員） ○ 演題 一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けた教育研究所・研修センターの在り方
■ 分科会	○ 分科会A『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実に係る取組 研究発表機関 胆振教育研究所、標津町教育研究所 ○ 分科会B「教職員の学びや働き方を支えるICT活用の在り方」 研究発表機関 根室教育研究所、北海道立教育研究所 ○ 所長研修会（情報交換「令和時代の教育研究所・センターの運営について」）
■ 助言者	○ 白水 始（国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官） ○ 廣谷 貴明（国立教育政策研究所教育政策・評価研究部研究員）
■ 大会参加者数	350名

(3) 令和5年度 会計決算・監査報告

○ 令和5年度 十勝管内教育研究所連絡協議会 決算

① 収入の部

項 目	令和5年度予算額	決算額	差引増減	摘 要
繰越金	111,498	111,498	0	令和4年度繰越金
負担金	40,000	40,000	0	管内教育研究所負担金 （@2,000×20）
合 計	151,498	151,498	0	

② 支出の部

項 目	令和5年度予算額	決算額	差引増減	摘 要
通信費	15,000	7,336	△ 7,664	切手・宅配料
消耗品費	40,000	13,076	△ 26,924	インクカートリッジ
予備費	96,498	0	△ 96,498	
合 計	151,498	20,412	△ 131,086	

③ 収支差引	¥151,498	－	¥20,412	=	¥131,086
	(収入額)		(支出額)		(残 金)
④ 次年度繰越金	¥131,086				

○ 令和5年度 十勝管内教育研究所連絡協議会 会計監査報告


会計監査報告書

令和5年度十勝管内教育研究所連絡協議会収支決算について、収支表・領収書及び預金通帳を監査の結果、適正な執行であることを認めたので報告します。

令和6年3月29日

十勝管内教育研究所連絡協議会 会計監査

音町教育研究所
所長 野村 逸



■ 協議事項

(1) 令和6年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業計画 (案)

① 研究主題

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究 (2 / 2年次)
～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～

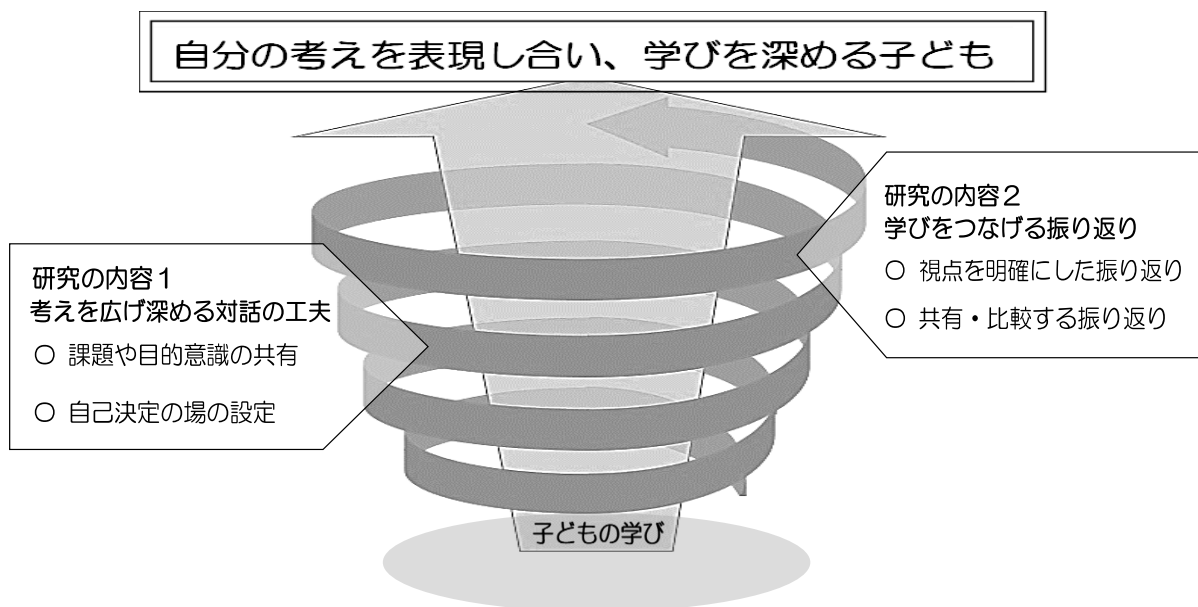
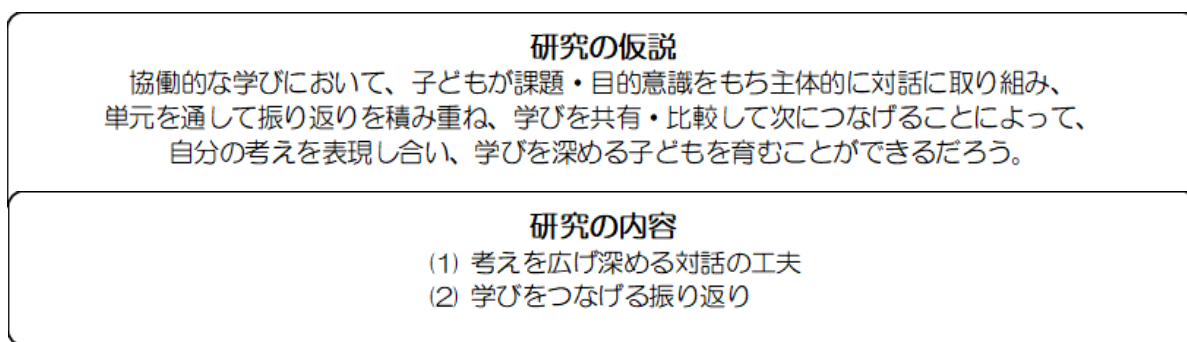
② 主題設定の理由

学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく学びの構築が求められている。そのためには、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが求められている。

研究1年次では、考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育むことができるだろうと考え、対話と振り返りに焦点を当てて研究を推進した。

その成果と課題から、子ども同士、子どもと教師が課題や目的意識を共有し、自己決定をしながら主体的に取り組む対話が必要であると考えた。また、視点を明確にした振り返りを積み重ね、学習を通して生まれた新たな気づきや課題を共有・比較することで、子どもが自己調整をしながら学びを次へつなげていくことができるのではないかと考えた。現在、1人1台端末の活用によってお互いの考えをリアルタイムで共有したり、変容を見返したりすることが容易となり、様々な学びの工夫が可能となっている。これらのことから、研究2年次は対話と振り返りの更なる充実に視点を当てた授業づくりの研究を進めることとした。

③ 研究の仮説と内容、構造図



※ 旅費の負担について

<ul style="list-style-type: none"> ・ 町村教育研究所負担分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回共同研究員（会議全体・グループ会議） ・ 第3回共同研究員（会議全体・グループ会議） ・ 第5回共同研究員（会議授業実践1・グループ会議） ・ 第6回共同研究員（会議授業実践2・グループ会議） ・ 研究発表大会
<ul style="list-style-type: none"> ・ 十勝教育研究所負担分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回共同研究員（会議推進幹事・副幹事・授業者） ・ 第4回共同研究員（会議グループ会議） ・ 第7回共同研究員（会議推進幹事・副幹事・授業者） ・ 第8回共同研究員（会議推進幹事・副幹事・授業者） ・ 第9回共同研究員（会議推進幹事・副幹事・授業者）

(2) 令和6年度 十勝管内教育研究所所員研修会実施要項 (案)

令和6年度 (2024年度) 十勝管内教育研究所所員研修会 (1次案内)						
1 趣 旨	管内の各教育研究所の今日的な課題と役割を明らかにし、併せて相互の研究成果の交流を図り、研究所員としての力量を高める。					
2 主 催	十勝管内教育研究所連絡協議会					
3 主 管	中札内村教育研究所 十勝教育研究所					
4 期 日	令和6年 (2024年) 7月4日 (木)					
5 会 場	中札内文化創造センター ※完全参集型による開催					
6 日 程	12:30	13:00	13:20	14:40	14:50	16:00 16:05 16:10
	受付	開 会 式	講 演 会	休 憩	部 会 (学 び ・ 心)	移 動 閉 会 式
7 内 容						
(1) 講演						
演題	「日高山脈国立公園化に向けて」					
講師	環境省帯広自然保護官事務所 自然保護官 山北 育実 氏					
(2) 部 会						
① 学び (確かな学力) を育む部会						
② 心 (人間性・社会性) を育む部会						
8 参加費	各市町村研究所 3,000円					

(3) 令和6年度 十勝管内教育研究所連絡協議会 予算 (案)

① 収入の部

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	前年度比	摘 要
繰越金	131,086	111,498	19,588	
負担金	40,000	40,000	0	管内教育研究所負担金 (@2,000×20)
合 計	171,086	151,498	19,588	

② 支出の部

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	前年度比	摘 要
通信費	15,000	15,000	0	切手・宅配便 等
消耗品費	40,000	40,000	0	コピー用紙・インク 等
研修会費	110,000	0	110,000	管内所員研修会 等
予備費	6,086	96,498	△ 90,412	
合 計	171,086	151,498	19,588	

■ その他

(1) 令和7年度以降の所員研修会発表割当について

方面 学校数	市町村 名	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年				
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028				
北部 22	音更	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		道東地区所員研修会を兼ねる	北海道教育研究所連盟研究発表大会を兼ねる	学提言			道東地区所員研修会を兼ねる					
	士幌									主管				
	上士幌							心提言						
西部 23	鹿追							心提言						
	新得										学提言			
	清水												心提言	
	芽室										主管			
南部 11	中札内					学提言				主管				
	更別										心提言			
	大樹												学提言	
	広尾											心提言		
東部 23	幕別					学提言								
	池田		学提言					心提言						
	豊頃		主管				学提言							
	浦幌								学提言					
東北部 12	本別		心提言							心提言				
	足寄							学提言						
	陸別					心提言	主管							
帯広 39			心提言				学提言							
十勝				主管	主管				主管					
主管・(主催)		東部	東部	十勝	(道研)	南部	東北部	西部	十勝	北部				

- ※ 所長部会は道研連に準じ6年度より廃止。それに伴い主管・各提言のローテーションを見直した。
- ※ 学提言～学び（確かな学力）を育む部会提言
- ※ 心提言～心（人間性・社会性）を育む部会提言
- ※ 部会の司会については、主管する研究所で検討し、その都度依頼する。

(2)十勝管内教育研究所連絡協議会役員・所員研修会の開催地（輪番）について

役員		担当研究所長								
会長		十勝教育研究所長								
副会長		帯広市教育研究所長								
		幕別町教育研究所長								
		十勝教育研究所副所長								
事務局長		十勝教育研究所								
会計監査		音更町教育研究所長								
		2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
幹事	東北部	本別	陸別	足寄	本別	陸別	足寄	本別	陸別	足寄
	南部	広尾	中札内	更別	大樹	更別	広尾	中札内	大樹	更別
	西部	芽室	鹿追	新得	清水	新得	芽室	鹿追	清水	新得
	東部	池田	浦幌	豊頃	池田	浦幌	豊頃	池田	浦幌	豊頃
	北部	音更	士幌	上士幌	士幌	上士幌	士幌	上士幌	士幌	上士幌
主幹方面		中止	東部	兼 道東研	兼 全道研	南部	東北部	西部	兼 道東研	北部
管内研		中止	豊頃	十勝	十勝	中札内	陸別	芽室	十勝	士幌
道東研		中止	根室	十勝	オホー ツク	釧路	根室	オホー ツク	十勝	釧路
道研連大会		上川	後志	札幌	十勝 帯広 幕別	オホー ツク	胆振	釧路	石狩	渡島

※ 十勝管内教育研究所所員研修会主管方面について

- 帯広→東部→南部→東北部→西部→北部とする
- 道東研、道研連大会が十勝で開催される場合にはその大会と兼ねる

資料（令和6年度十勝教育研究所）

職名	氏名	所属
所長	山田 洋	専任
副所長	横山 一仁	幕別町立札内東中学校
主任	柴田 悠二	音更町立緑南中学校
副主任	白澤 大輔	音更町立木野東小学校
所員	山本 由佳	幕別町立札内中学校
所員	靱山 修斗	幕別町立札内北小学校
所員	佐藤 悠樹	音更町立音更中学校
書記	清水 悦子	専任

十勝管内教育研究所連絡協議会規約

(名 称)

第1条 本会は、十勝管内教育研究所連絡協議会という。

(組 織)

第2条 本会は、十勝における教育研究所並びにこれに準ずる機関を持って構成する。

(目 的)

第3条 本会は、加盟機関相互の連携を密にして、教育研究の充実を図り、もって十勝教育の振興に寄与する。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的達成するため下記の事業を行う。

- (1) 教育研究所員研究発表会 参加協力
- (2) 共同の研究
- (3) 教育研究に必要な資料の収集及び交換
- (4) 教育研究活動の理解普及
- (5) その他必要な事業

(機 関)

第5条 本会に下記の機関を置く。

- (1) 総 会
- (2) 幹事会

(総 会)

第6条 総会は、関係機関の代表をもって構成する。

2 総会は、会長の招集により年一回定期に開催し、下記の事項を審議する。

ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

- (1) 規約改正
- (2) 役員を選出
- (3) その他本会の事業に関する事項

(幹事会)

第7条 幹事会は、正副会長・幹事をもって構成する。

2 幹事会は、会長が招集し司会する。

3 幹事会は、総会の決議事項の執行に当たる。緊急事項が生じた場合はこれを処理し総会の承認を求める。

(役 員)

第8条 本会に下記の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 幹事 若干名
- (4) 会計監査 若干名
- (5) 事務局長 1名

2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。

(事務局)

第9条 本会の事務局は、十勝教育研究所に置く。

(経 費)

第10条 本会の経費は、総会の審議で決める。

附 則

この規約は、昭和51年8月23日より施行する。

この規約は、平成20年5月20日より施行する。

この規約は、令和4年5月31日より施行する。